

発行日：2024年4月1日

## ご挨拶

東京都立青鳥特別支援学校  
前 統括校長 諏訪 肇



こんにちは。都立青鳥特別支援学校統括校長の 諏訪 肇(すわはじめ)と申します。令和4年4月に着任いたしました。もえぎの会には、本校の卒業生が多数いらっしゃるとう聞きしています。どうぞよろしくお願いいたします。

さて青鳥特別支援学校は、今まで皆様に親しまれてきた池尻1丁目の本校舎を建て直すため、令和5年4月より、三軒茶屋駅近くの下馬2-38-23に仮校舎(通称:三軒茶屋校舎)を建て、引っ越いたしました。当初、4年後の令和9年4月に新しくなった池尻本校舎に戻る予定でしたが、校庭の下から縄文遺跡が発見されたため、その調査に2年ほど必要なことから、令和11年4月に戻ることとなりました。それまでは、現在の三軒茶屋校舎を使うこととなりますので、ご承知おきください。

また青鳥特別支援学校は、三軒茶屋校舎移転だけでなく、いろいろなことが変わりました。一つは令和5年4月より「職能開発科」(定員20名)が出来たことです。企業就労を目指すコースで、全都を学区域としています。目黒区在住の生徒さんも在籍しており、元気に通ってきています。そしてもう一つが、令和3年4月より都心から南へ300kmのところにある八丈島に、「八丈分教室」を開室したことです。現在、7名の生徒が島内から通学しており、本校とはオンライン等で交流しています。また、本校内にあるブルーバードカフェでは、八丈島レモンティーやハイビスカスティーなど、八丈島の特産物を取り入れたメニューも提供しています。是非、お越しください。なお、カフェのオープンしている日は、本校HPでご確認ください。

もえぎの会(しいの実社)様では、パンやクッキーも販売しているのですね。先ほどネットをチェックしましたところ、美味しそうなパンの写真が沢山出てきました。場所も定休日もチェックしましたので、そっとお忍びで買いに行こうと思っています。これからの皆さまの活躍を楽しみにしています。

## 2024年度 もえぎの会 事業報告会のご案内

恒例の事業報告会を、下記のように開催します。

**7月20日(土) 目黒区総合庁舎 2階大会議室**

ご案内は後日、お送りいたします。4年ぶりに総合庁舎での開催となります。新たな取り組みを検討しておりますので、ぜひ、お誘いあわせの上、ご出席していただきますようお願い申し上げます。

皆さまとの懇親、交流を、利用者・家族・職員一同心より楽しみにしてお待ちしております。



2022年度事業報告会

## もえぎの会 2024年度事業計画

もえぎの会は、理念にある「地域での活動・就労・生活等の総合的な支援を目指す。」ということで、その中核となる日中活動の場と生活の場を運営し、質量とも向上を目指してきた。

今後、さらに世の中の状況の変化、地域の要請に基づいて、サービスの品質向上と併せて運営基盤の強化を目指すとともに、新たな利用者を受け入れ、一方で利用者・家族の高齢化への対応が必要となり、年度目標を「世代の変化に対応」として、取り組みを強化する。

しいの実社と沙羅の家の連携強化はさらに重要になり、経験の少ない職員の増加と併せて、改めて、福祉専門職としての意識強化、支援力向上に向けて研修を充実させる。

### 重点課題

#### 1. 支援者の世代交代に向けた対策

家族会・後援会会員の高齢化が進み、もえぎの会の活動を継続していくための家族会等各種イベントなどに、参加することが難しくなっている。一方、家族自身が仕事を持つなどにより参加が難しい状況にある若い世代の家族も増えている。そのため、多くの家族が参加しやすいような運営方法を家族と一緒に検討する。家族が参加することの意義の理解を深めていただけるような丁寧な説明、負荷のない参加などの機会を増やす。家族会の運営改善、懇親会の開催などを通して、若い世代の家族の参加を増やす。それにより、時代の変化に合わせて、もえぎの会も守るべきは守り、新しくすべきは新しくし、発展し続けられる組織風土を醸成する。

#### 2. しいの実社の改善・拡大

利用希望者が継続するため、円滑な受け入れをするためのプロジェクトを立ち上げる。

現在の状況で、利用者の特性、作業の内容、スタッフの配置などを考慮して活動内容を改善し、利用者の増加に対応する。さらに、よりよい作業環境、支援内容で、利用者の増加に対応するために、新たな活動場所の確保を目指して検討項目を整理し、行動に着手する。

#### 3. 沙羅の家の運営の安定

開設から18年を迎える沙羅の家は、スタッフの入れ替わりが多く運営が安定しない状態が続いている。今後利用者の高齢化や重度化が進むグループホームで質のよい支援を提供するために、運営体制の安定化を図る。施設長・支援課長の役割分担を見直し、施設長に集中している権限を支援課長へ移譲し、施設長が管理職として機能できる体制を確保していく。そのために、沙羅の家部課長会議、地域生活支援拠点運営会議等を行い、運営課題を共有し、改善に取り組んでいく。地域生活支援拠点は開設から6年目を迎え、これまで提供してきたサービスを振り返り、機能の充実に向けた強化を図っていく。

### 虐待防止研修

沙羅の家 支援課長 君島宏幸

今年の虐待研修は人権擁護をテーマとして実施しました。沙羅の家は勤務時間がバラバラになりますので、録画した教材を深夜勤務中に視聴する職員も多くいました。

人権尊重については普段から意識しているつもりでしたが、講義を視聴して具体的な事例を目の当たりにし、まだまだ理解が不十分なことを思い知らされました。

特に平等については「差別」「区別」との違いに普段から特に意識しなければならないと自戒しました。今後、合理的配慮の提供についても具体的な場合でどの様に向き合うべきかまだまだ学習し、実践を繰り返しながら改善しなければいけません、今回の研修を受講し、さらに学習の必要性を動機付けられました。

今回の研修により、改めて、今後の利用者支援に活かし、利用者の皆さんに今以上に過ごしやすいグループホーム運営を心掛けたいと思います。



### 第22回 しいの実祭 開催

11月25日(土)にしいの実祭を開催しました。今回は、コロナ流行以前のように広くたくさんのお客様に来て頂こうと、担当職員を中心に広報活動なども例年以上に力を入れて取り組みました。目黒区他施設の販売やワークイン翔の焼きそば、清水町会のフランクフルト、天ぶら川さき、バルーンアートの碑文谷風船団、昨年から再開した後援会によるバザー、豚汁も参加して頂きました。館内でも、今年初めての試みとしてクラフトの手作りしおり体験を行い、イベントコーナーでのクラリネット演奏や3階もカフェとしてお客様に楽しんで頂きました。

これまでコロナ禍の中でリモートしいの実祭として始めたカタログは、お歳暮を中心とした「冬の贈り物」としてお届けしました。

当日は青木区長、おのせ区議会議長、橋本健康福祉部長を始め、行政、都議、区議にも多く足を運んで頂きました。近隣のお客様もたくさん見え、それぞれ恒例の長い行列ができていました。今回久



お店は中も外も大行列



新企画 体験コーナー

しぶりに利用者の皆さんもお客様と触れ合う機会をもち、私たちの活動を地域の皆様により知っていただくことができたのではないかと思います。ご協力いただいた皆様・ご来場いただいた皆様に心から感謝申し上げます。



青木区長 カタログ製品お買い上げ



クラリネットの演奏に耳を傾けて

### 学芸大学店舗で新たな活動

昨年10月から学芸大学店の2階で、より店舗運営と関連した新たな活用が本格的に始まりました。毎朝「おはようございます」と元気な声でスマイルプラザの社員さんが出社しています。出社後、それぞれ自分の1日のタイムスケジュールをホワイトボードで確認して作業開始です。

午前中は清掃や開店準備の後に接客などのショップの仕事を中心に、午後は2階で牛乳パックを使ったパルプの作業やカタログの封入作業などの作業を行っています。パルプの作業では自分を取り出したパルプが、クラフト部門で葉書やカードなどに生まれ変わり、商品として販売される事がうれしい様子で、作業に誇りをもって取り組んでくれています。開始から数か月が経ってすっかり慣れてきましたが、みんなしっかりとメリハリをつけながら毎日頑張っています。



お待ちかねランチタイム



1日の作業の流れを確認



丁寧に丁寧に朝の清掃作業



## 株式会社 神定工務店

目黒区碑文谷4-16-7  
Tel : 03-3714-6318

前回伺った時と同じように、穏やかな笑顔で迎えて下さったのは3代目の伊大知(いおち)直哉社長。地元を中心に大工工事、型枠工事等を請け負っている工務店です。「沙羅の家 大岡山」でもお世話になり、10年以上サポートして頂いています。

型枠工事とは一般にはなじみがないかもしれませんが、鉄筋コンクリートの建物にコンクリートを流し込むための型を作る工程のことです。建物の強度や耐震性に関わる実は大変重要な工事です。

工事の質を保つため、機械化が行われず型枠大工と言われる職人さんが手作業で設置を行っています。

現場では、昨今の気候変動による熱中症対策なども欠かせません。専門の技術力はもちろんのこと、体力、同僚やお客様とのコミュニケーション力、様々な能力を必要とする職人さんの社会的地位がヨーロッパと比べると高いとは言えません。ドイツではマイスター制度なるものがあり、その地位は保証されています。文化の違いだけとは言いきれないのですが、日本でも向上できたらもっと希望する人も増えると思いました。

息抜きには趣味のゴルフや元々好きだったという絵画を習い始めた伊大知社長。1回2時間ほどの時間が、とても充実しているそうです。経営ではこれから4代目の息子さんにバトンが引き継がれていくところです。「少しずつ引きながら、応援していきたい」とおっしゃいます。そして、もえぎの会についても「少しでもかかわることは大事なことだと思っているのでこれからも応援していきたい」と心強いお言葉をいただきました。これからもどうぞよろしくお願いします。



伊大知 直哉社長

## おがわこどもクリニック

OGAWA KODOMO CLINIC

坂戸市千代田1-5-7

TEL 049-282-3153

坂戸市のおがわこどもクリニック小川耕一院長をお訪ねしました。代々の地に生まれ、おじい様の代から医業を始められました。

開業医として地域に根差し、内科・小児科として活躍されてきたお父様とこの地で「おがわこどもクリニック」を開業されました。小児科を志したのは子どもと波長が合うこと、内科の範囲で何でも見られるようになりたいということもあっての自然な選択だったそうです。

時には、障害をもっていらっしゃる患者さんもおられ、威圧感を与えないよう笑顔を大切に、その方の自尊感情を大切に向き合っておられます。最近では、食物アレルギー患者の命の危険が迫る現場での処置という生死の境で命を救う場面もあったそうです。地域医療の最前線であるクリニックは、医師を必要とする色々な人が訪れ、様々な状況に立ち会うクリニックなのだ実感しました。



小川 耕一院長



後援会入会のきっかけは、先生の恩師でもある、もえぎの会の利用者のご家族からの紹介です。ご縁は大学時代の部活動を通してできたつながりで、今でも部活動メンバーとは情報交換をしたり、私生活で一緒にサーフィンやゴルフなどの趣味を楽しんだり、先生を助けてくれているということです。経営者としても、労働環境の整備や職員の定着に取り組まれている先生は、穏やかな笑顔と温かな語り口ながら、地域医を支える担い手としての力強さが滲み出ていました。旅行や食べ歩きの間時間も大切に、ご活躍を期待しております。

母校の近くでもあり土地勘の強い千駄木に、昨年7月クリニックを開業された村上院長にお話を伺いました。形成外科医である院長は、まぶた付近のイボやホクロの除去等を行っていましたが、ある時、逆さまつ毛の治療を依頼され手術したところ患者さんがどんどん増えたそうです。需要の多さや必要性を感じた院長は、大学病院の眼科に移り、さらなる専門知識を深めたのち、まぶたの病気に特化したクリニックを作ったとのこと。眼科と形成外科の境界領域であるこの分野を専門とする医師は現在も少ないそうです。

高齢化が進む現在、白内障だけでなく、眼瞼下垂も治せば視界が広がって生活のクオリティも上がるのに、まだまだ世の中の理解が浅いと感じられているご様子。加齢だけでなく、病気が原因の眼瞼下垂や視界を遮る箇所*の*イボ・ホクロ除去も同様です。「視機能と整容の両立を目指す眼瞼形成手術について広めていくのがライフワークです。手術は後戻りができない治療なので、患者さんが本当に望む結果を出せるように診察を大事にしています。」と熱く語られていました。専門知識と実績のある院長に施術されるならば、患者さんも安心ではないでしょうか。

クリニック、全国での手術や指導、執筆でご多忙の院長に、「時間が足りないのでは？」と話すと、それまで熱く語られていた様子が一変して破顔に。「そこは妻が素晴らしいので大丈夫なんです！」奥様がインタビュー時もクリニックでサポートされていました。ご家族の話をされるときは笑顔で穏やかな一面を感じましたが、医師の家系であられたこと、高校大学と野球に打ち込まれたこと、しいの実社利用者家族との深い大切な繋がり等、終始エネルギーにお話を頂きました。今後もさらなるご活躍をお祈りいたします。



村上 正洋院長  
中日ドラゴンズのネクタイを愛用

### 新規後援会員をご紹介ください

**年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上**

会費はお手数ですが、直接お持ち頂くか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751 (ゆうちょ銀行からのお振り込み)

ゆうちょ銀行 当座 〇一九店 0667751 (ゆうちょ銀行以外からのお振り込み)

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)



## 沙羅の家

# 萌木

### 沙羅の家 地域生活支援拠点

地域生活支援員 鈴木 ゆう子

地域生活支援拠点も沙羅の家清水と同じ、開設して5年が経ちました。

拠点では、「体験の機会・場の提供」という機能を担っており、沙羅の家清水の短期入所を活用しています。当初は利用もまばらでしたが、今では予約のカレンダーが男女共に埋まり、希望に添えないことも増えてきました。ご紹介やリピーターの方も多く、嬉しい限りですが、皆さん将来グループホームへの入居を視野に入れてのご利用です。拠点として社会資源が不足している現状を行政に伝えていく必要も感じています。

また相談支援事業や関係機関と連携して様々な支援のお手伝いもさせて頂いています。時には短期入所のご利用者さんから「お母さんが入院して、一人で家にいます」なんて緊急の連絡が入ることもあります。

自室で自分のペースで



### 沙羅の家向原の週末利用

沙羅の家向原 チーフ 岩井隆弘

2023年6月から向原では週末の利用が可能になりました。この週末利用開始は将来を見据えて始めたもので向原にとってとても大きな計画でした。なるべく混乱が生じない様に奔走した事をつい先日の事のように感じていますが、おかげさまで9カ月目を迎えています。

この取り組みで私達が最も気を付けたのは“これまでの週末の生活を崩さない”という事です。食事だけの利用や半日だけの利用等、色々な提案をし、毎月アンケートを実施しながら週末利用への入り口を広く設けた事で、混乱もほとんど無くこれまでの週末の生活に“向原”という新しい選択肢がうまく溶け込めたと感じています。



近所の盆踊りに参加

向原の週末ではスタッフと一緒に外食に出かけたり、お弁当を購入したりと平日とは違った食事の機会があります。他には散歩をして好きな物を購入したり、図書館に出かけて読書を楽しんだり、地域のイベントに参加する事もあります。また、移動支援を利用している方は好きな場所にお出かけされています。

私達は土台を作っただけで、ご紹介した週末の過ごし方は皆様が自分で考えながら作り上げている物がほとんどです。個々のペースで進み続ける向原の週末がより素敵な時間になる様に私達の支援がその一助となれば幸いです。



週末に好きなデザートを楽しみました

### 編集後記

新年度が始まりました。改めて自分たちができることを1つずつ積み重ねながら、組織として成長していきたいと思います。(岡田)

発行: 社会福祉法人もえぎの会

住所: 目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部)

電話: 03-5724-7153

e-mail: shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

